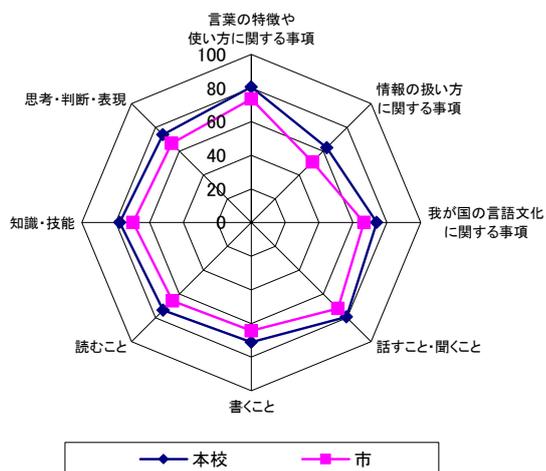


# 宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.6	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	63.0	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	74.0	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	79.4	72.3	73.7
	書くこと	71.1	64.3	66.6
	読むこと	73.7	65.8	64.9
観点別	知識・技能	77.6	69.8	70.8
	思考・判断・表現	73.8	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

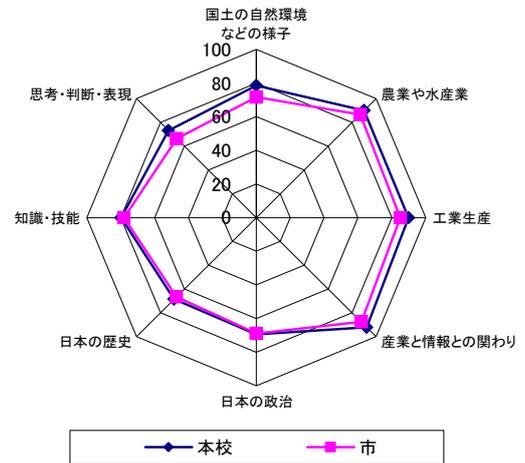
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、80.6%で市の平均正答率より7.1ポイント上回っている。</p> <p>○漢字を読むことに関しては、全ての設問で正答率が90%を超えている。</p> <p>○「三字熟語の成り立ち」の正答率は市の平均より15.4ポイント高い。「接続詞の理解」は16.6ポイント高い。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>●漢字の読み書きの力をさらに伸ばすため、漢字ドリルの活用とともに生活の中で既習漢字を使用するよう意識付けを図っていく。</p> <p>●語彙を増やすために、読書や新聞を読む時間を意図的に取り入れていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、63.0%で市の平均正答率より12ポイント上回っている。</p> <p>○文章の情報を整理する問題では、正答率64.9%で市の平均より14.2ポイント高い。</p> <p>○目的に応じた文章を簡単に書く問題では、正答率61.1%で、市の平均より9.8ポイント高い。</p>	<p>●複数の情報の関係を理解し、目的に応じた文章を書く力を伸ばすために、文章を読んで要約したり、キーワードを抜き出したりと、的確に話題を捉えて表現する活動を取り入れていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、74.0%で市の平均正答率より7.5ポイント上回っている。</p> <p>○和語、漢語、外来語の組み合わせについての設問では、市の平均より7.5ポイント高い。</p>	<p>●和語・漢語・外来語への理解を深め、言語文化への興味関心が高まるよう古文や漢文等様々な文章に触れる機会を確保するとともに、1人1台端末を利用し、楽しみながら語彙を増やしていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、79.4%で市の平均正答率より7.1ポイント上回っている。</p> <p>○意図に応じて質問を工夫する設問に関しては、正答率80.9%で市の平均より3.9ポイント高い。</p> <p>○自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える設問に関しては、正答率60.3%で市の平均より13.9ポイント高い。</p>	<p>●テーマを明確にしてインタビューする活動を設定し、話の内容を捉えたり、意図に応じて質問を工夫したりできるよう支援していく。また、国語科だけでなく、全教科を通して、話し合い活動を計画的に取り入れ、内容を聞き取ったり、相手の立場を考えたりする能力を高めていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、71.1%で市の平均正答率よりも6.8ポイント上回っている。</p> <p>○段落の役割について理解し、2段構成で文章を書く設問では、正答率71.0%で市の平均より7.8ポイント高い。</p> <p>○予想される反論とそれに対する意見を書く設問では、正答率63.4%で市の平均より16.3ポイント高い。</p>	<p>●国語科だけでなく他教科においても、学んだことや自分の考えを文章で書く活動を取り入れることで、書くことに慣れるようにしていく。また、書いた文章を互いに読み合う活動を設定し、自分の書いた文章のよさや問題点に気付かせることで、文章を推敲する力を伸ばすようにする。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、73.7%で市の平均正答率より7.9ポイント上回っている。</p> <p>○物語文において、登場人物の心情を描写を基に考える設問に関しては、正答率87.0%で市の平均より11.8ポイント高い。</p> <p>○●説明文において、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する設問に関しては、正答率42.0%で市の平均より6.7ポイント高い。一方、誤答率が5割を超えている。</p>	<p>●物語文における登場人物の心情を捉えるために、根拠となる文中の言葉に注目し、自分の考えがもてるようにする。さらに、友達と考えを交流し、読みを深められるようにする。また、説明的な文章を読んで文章全体の構成を捉え、叙述を基に文章の内容を読み取る学習課題を設定していく。</p>

# 宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	78.5	71.6	69.6
	農業や水産業	90.0	86.7	83.7
	工業生産	89.8	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	92.2	87.7	77.4
	日本の政治	69.4	68.9	71.7
観点別	日本の歴史	68.6	66.7	66.3
	知識・技能	79.8	78.0	76.7
	思考・判断・表現	73.3	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

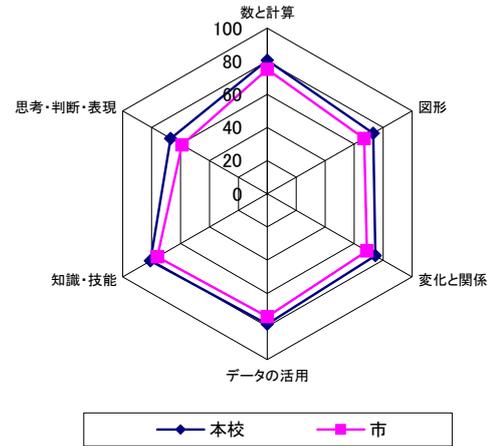
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、78.5%で市の平均正答率より6.9ポイント上回っている。</p> <p>○世界の国の位置と国旗の理解を問う設問では、正答率が87.3%で、市の平均を6.2ポイント上回った。</p> <p>○日本の主な地形(湖)の名称の理解を問う設問では、正答率が77.6%で、市の平均を3.6ポイント上回った。</p> <p>●国内の林業が抱える課題について考える設問では、正答率が50.0%で市の平均を上回っているものの、やや低い結果となっている。</p>	<p>授業等で出てきた国や海洋についてその都度調べたり、ニュースなどで話題の国々を取り上げたりして、その位置を理解させるとともに、日本との関係にも目を向けさせていく。また、都道府県や日本の主な地形についてデジタル教科書や1人1台端末などを活用して確認させ、学習内容の定着を図るようにする。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、90.0%で市の平均正答率より3.3ポイント上回っている。</p> <p>○米の生産工程についての理解を問う設問では、正答率が88.1%で、市の平均を6.5ポイント上回った。</p>	<p>日本の主な食料の自給率について関心を高めるとともに、どのようなことを表した資料なのか、資料からどのようなことが分かるのか、分かったことからどのようなことが考えられるのか、などを意識しながら資料を読み取るよう指導する。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、89.8%で市の平均正答率より4.8ポイント上回っている。</p> <p>○日本の工業の特色について、資料を基に表現する設問では、正答率が86.6%で、市の平均を13.2ポイント上回った。</p> <p>●自動車の製造工程についての理解を問う設問では、正答率が87.3%で、市の平均を2.0ポイント下回った。</p>	<p>地図帳や資料だけでなく、映像資料などを用いて、現在の工業の様子について確認させるようにする。また、現在の様子だけでなく過去からの移り変わりを捉え、今後の工業生産にも目を向けることができるよう指導する。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、92.2%で市の平均正答率より4.5ポイント上回っている。</p> <p>○情報の発信と受信の注意点についての設問では、正答率が85.8%で、市の平均を6.7ポイント上回った。</p>	<p>デジタル化の進展が生活に大きな影響を及ぼしていることや、有効な情報を正しく活用することが大切であることを、社会科の授業はもちろん、他教科の授業や生活の中の様々な具体的な事例から考えさせ、理解を深めさせるように努める。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は、69.4%で市の平均正答率より0.5ポイント上回っている。</p> <p>○国会と内閣の関係についての理解を問う設問では、正答率が87.3%で、市の正答率を4.7ポイント上回った。</p> <p>●内閣の働きについての理解を問う設問では、正答率が35.1%で、市の平均を7.3ポイント下回った。</p>	<p>自分たちの生活と政治とのつながりを考えさせながら、主権者としての自覚をもてるような学習を進めていく。また、三権分立のそれぞれの取組みについて、まとも学習などを行うことで正確な理解を図ることができるように指導する。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、68.6%で市の平均正答率より1.9ポイント上回っている。</p> <p>○縄文時代の生活の様子についての理解を問う設問では、正答率が91.8%で、市の正答率を7.4ポイント上回っている。</p> <p>●源氏物語や書院造の特徴など、文化史を問う設問では、いずれも市の平均正答率を下回っている。</p>	<p>年表や図表、地図、映像、文章などの資料を活用しながら、歴史的事象を正確に捉えさせていく。また、文化的な面で、現在の生活とのつながりがあることを意識させながら、理解を深めさせるように努める。自分の考えを根拠を示しながら文章で表現する活動を通して、知識の定着を図っていく。</p>

# 宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.6	75.1	75.8
	図形	73.2	66.8	68.3
	変化と関係	74.7	68.8	65.0
	データの活用	78.6	74.1	63.6
観点別	知識・技能	80.8	76.1	75.8
	思考・判断・表現	66.8	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

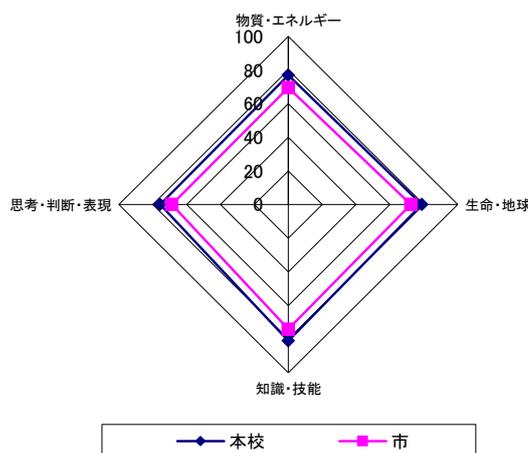
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、80.6%で市の平均正答率より5.5ポイント高い。</p> <p>○真分数同士の足し算で、片方の分母にそろえて通分する問題では、正答率は83.5%で、市の平均より9.9ポイントと大きく上回った。</p> <p>○純小数同士の乗法の問題では67.7%で、市の平均より1.6ポイントと少し上回った。</p>	<p>文章問題の意図するところを正しく読み取り、式の意味や計算の仕方を理解することができるよう、宿題や朝の学習等で継続して学習に取り組ませていく。また、計算の仕方について、既習の計算などをもとに考えることを大切に授業を展開していく。</p>
図形	<p>平均正答率は、73.2%で市の平均正答率より6.4ポイント高い。</p> <p>○正多角形・合同・立体の合同な三角形の作図では、正答率は90.2%で、市の平均より1.9ポイントと上回った。ほとんどの児童が正しく作図することができた。</p> <p>●高さが図形の外にある三角形の底辺と高さを読み取り面積を求める問題では、平均正答率は45.9%で、市の平均正答率より7.4ポイント上回ったが、正答率が低かった。</p>	<p>面積と底辺と高さなど図形に関する基礎知識の理解を深め、それを用いて説明をすることができるような授業を展開していく。今後も、図形の見方が正確にできるよう指導の充実を図る。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、74.7%で市の平均正答率より5.9ポイント高い。</p> <p>○速さと道のりから時間を求める問題では、平均正答率は90.2%で市の平均より10.8ポイントと上回った。</p> <p>●基準量と比較量から割合を求める問題では、正答率は57.9%で、市の平均より4.1ポイントと上回ったが、正答率は低めであった。</p>	<p>授業で日常生活での場面を取り上げ、図等から必要な情報としての面積や人数に着目し、比較して捉える学習活動を多く取り入れていく。自分で考え、根拠をもって説明したり考えを伝え合ったりする活動の充実を図る。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、78.6%で市の平均正答率より4.5ポイント高い。</p> <p>○値に0があり、答えが小数になる分離量の平均を求める問題では、平均正答率は、94.0%で高く、市の平均正答率より9.6ポイント上回った。ほとんどの児童が正しく問題を解くことができた。</p> <p>●問題の場面を理解し、4日間に走った道のりの平均から、2週間に走ると考えられる道のりを求める問題では、平均正答率は50.4%で、市の平均正答率より8.8ポイント上回ったが、正答率が低かった。</p>	<p>児童の生活に関わる事柄を題材にして、統計的に問題解決をする活動を取り入れた授業を進めていくことで、データを分類整理し、分析結果を活用する力をさらに高めていく。道のりと速さや時間の関係を理解させ、計算を繰り返して、より習熟を図る。</p>

# 宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	76.9	69.5	65.2
	生命・地球	78.8	72.3	70.1
観点別	知識・技能	81.0	74.0	70.7
	思考・判断・表現	75.6	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均正答率より7.4ポイント上回っている。</p> <p>○ふりこの1往復の動き方、物の燃え方においての二酸化炭素とちっ素を区別する方法の正答率は9割を超えている。</p> <p>●物のとけかたにおいて、水にとけた食塩とミョウバンを取り出す方法を指摘する問題では、市の平均を1.4ポイント下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>今後も、正確な実験結果を得るために必要な器具の正しい使い方の理解や実験結果を一人一人がまとめ振り返る活動を重視し、知識・技能の確実な定着を図る。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均正答率より6.5ポイント上回っている。</p> <p>○動物のからだのつくりとはたらきにおいて、消化された養分は主に小腸で吸収されることの問題の正答率が高く、市の平均より17.7ポイント上回っている</p> <p>●動物のからだのつくりとはたらきにおいて、消化管の理解に関する問題の正答率が市の平均を4.1ポイント下回っている。</p>	<p>今後も、実際に実験をすること、結果から分かったこと等を文章でまとめる活動を充実させることを通して、一人一人の学びの確実な定着を図る。</p>

## 宇都宮市立泉が丘小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
思考力・判断力・表現力等の育成	「自分の考えを書く活動」の習慣化や、それを基に「話す・聞く」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話し合い」活動の充実	6年生は、「思考力、判断力、表現力」を問う正答率が「知識・技能」を問うものよりも低いですが、記述式設問の全てにおいて市の平均を上回る。また、「先生や友だちの話を、最後まできちんと聞いている」の肯定割合は全ての学年において9割以上である。
個別最適な学びと協働的な学びの融合を図った授業の推進	互いのよさを生かしながら、協働して課題に取り組む態度の育成を目指す児童の学び合える活動の工夫	全ての学年で、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合が市を上回るが、3年～6年で、「自分の考えを、理由・根拠を挙げながら話すことができる」は8割を超える学年もあるが6割程度の学年が多い。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・4～6年生は、国・県・市の調査ともに、記述式設問の平均正答率が市と比べて高いため、自分の考えを書く習慣が身に付いてきていると考えられる。また、全学年において話を最後まで聞いている児童が9割を超えたことから、話し合い活動の充実を図ることができたと考えられる。次年度も引き続き自分の考えを書き、それを基に話し合う活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成に努める。

・話し合いに自分から進んで参加している児童が多いことから、互いのよさを学習に生かすために話し合うことのよさを児童が実感できていると考えられる。今後も互いのよさを生かすことを価値付けし、児童が主体的に文章表現やコミュニケーションをとることができるよう指導していく。次年度は、考えと理由をセットで話すことを児童に意識させ、自らの考えを深める学び合いになるような指導を充実させる。